

市民の声

市政に思う

第23号に引き続き、市民4名の方にお話し、市政等に対する思いを書きいただきました。
ご協力ありがとうございました。

議会広報特別委員会

魅力あふれる 江田島市

大柿町 関戸 尚子



今年の4月に夫の退職を機に呉市から移住してまいりました。「退職後は海のそばに住みたい」という思いで、自然が多く残っているにもかかわらず、広島・呉へのアクセスが良く、素敵な出会いのあつた深江を永住の地を選びました。朝の目覚めは港を出て行く漁船のエンジンの音、大黒神島に沈む夕日の美しさ、初めて経験する刈払機との格闘で収穫した野菜のおいしさ、そ

して何よりもうれしいのが近所の人たちの温かさなど、引越してまだ半年ですが地元の方々からいつも温かい声をかけていただき、本当に江田島に移住してよかったです。現在、江田島市は高齢化、過疎化が進んでいると聞いております。どうか、高齢者に優しい市でいてほしい。そして、高齢者パワーを活用した市であってほしい。そう願います。そして、

このすばらしい自然環境をいつまでも大事にしたいです。同時に若い人たちが夢と希望を持ち、活気ある街づくりをしていただきたいと思っています。そのためにも、海産物やその加工品、花など江田島の特産物を「江田島ブランド」として日本各地での販売ルートに官民が一体となって確立できれば素晴らしいと思います。行政がリードし、地域の資源を有効に活用した

一貫性のあるブランディングが今こそ必要なのではないでしょうか。勝手な思いを述べさせていただきましたが江田島市がますます発展していくことを心から願っています。

深謝

子育てバンザイ

江田島町 石田 美香



現在、子供達が大きくなるにつれ育児の困難さと共に手応え奥行きも深まるこの頃です。江田島市に嫁いだ頃、周りに知り合いがいらない状況、友人がいない妊婦時代、子育て支援がとてもし身近に感じられませんでした。

例えば妊婦時のマタニティスクール、出産後の沐浴教室の参加など、いろんな行事に参加する事によって子育てに同じ悩みや不安を持つお母さん達とお友達になった。園の先生方やお母さん方、園児、未入園児のお友達と接する事ができ、親子で楽しむ事ができました。学童保育では、安心して子供を預ける事ができる信頼感もあり、安心して仕事ができいま

り、専門員の方々に悩みを相談できたり、とても心強く楽しかったのを覚えています。子供の入園前には、すくすくクラブやサークルの季節行事やベビーカーでの遠足にも参加させていただきました。また、園庭開放では園の先生方やお母さん方、園児、未入園児のお友達と接する事ができ、親子で楽しむ事ができました。学童保育では、安心して子供を預ける事ができる信頼感もあり、安心して仕事ができいま

人達が仕事と育児を両立でき、家族が幸せな暮らしを送れる江田島市であり続けて欲しいと思います。

「地域に生きる喜び」が持てる町づくりを

能美町 下田 満



薄明の頃、畑に出る。田んぼを見に来た隣人と稲の出来具合や猪の出没や今年の暑さについて話す。作物の育て方について親切に教えてもらう。夜は、公民館の自主活動に参加し、講師の先生や先輩に教わる。また、老人クラブ、お寺やお宮の会合に参加し、諸先輩の考えに耳を傾けつつ、行事の企画等について協議する。会合は、ほぼ全員が出席し、真摯に整然と議事が進行していく。退職して、農業や地域

活動に携わって、「地元は、こんなに素晴らしい場所だったのか」という感動と発見の中にある。今年、5年に一度の八幡神社祭礼の当番であった。自治会を中心とした地域を上げた全面協力体制の中の運営。だいは、おたふく・獅子・神楽・勢子の演技者は、小学生から高齢者までに渡る。演技は、代々の経験者が指導に当たり、若者へ継承されている。夏から始めた練習には、近所の人や家族が見学に来

る。経費は、ほぼ全地域住民や地元企業の寄付で運営される。少子・高齢化社会の中でも、伝統行事は脈々と受け継がれている。恵まれた自然環境、地域の教育力や連帯感、相互扶助の精神、歴史を重ね生み出された勤勉で誠実な生き方や倫理観。これらは、次世代に残すべき宝である。

江田島市に息づく勤勉・誠実・相互扶助の精神は一朝一夕には培われない。心豊かで幸せを感じる。市民一人一人が何かしらでもらおうではなく、何かできることはないかと汗を流してこそ充実した日々の暮らしに繋がるのではないだろうか。



フェリー便の試験運航に当たって

沖美町自治会連合会 会長 三浦 保正



西能美の玄関「三高港」へフェリーの発着が10月から試験運航による一元化が実施とのことであるが、試験運航実施による、運航内容がならん現状と変わらずに実施では、試験運航の効果を何を持って検証されるのか疑問に思う。ただ交通局のフェリーを廃止したことによる効果を期待するのはどうかと思う。交通協議会から、既存の船会社へ、現状の16便を20便以上の運航便にし、更

に、高速便の回数券が11枚から12枚になり更に9300円と住民サービスが顕著に出ています。しかし、既存の船会社へ同じような料金体系を協議会が提示して初めて地域住民サービスとなり、試験運航にふさわしい体系が確立されるのではないのでしょうか。現状の11枚を12枚5500円ぐらいの料金が設定できないものだろうか。では、車を船に乗ってもらう為にどうしなけれ

ばいけないかが議論されていないのではなからうか、島内から広島市まで約1時間20分。走行時間の排ガスの排出量×想定台数÷1日の総排出量×180日＝試験運航期間の総排出量では、一便当たりの乗車台数×平均10台と想定すると1日16往復便数が多くなれば効果は大きくなる。約320台で約19・2時間排ガス量を抑制したことになる。鳩山前総理の排ガス抑制に貢献できるのではないで

しょうか。この抑制効果分+補助金の充当による、料金の改定または、往復運賃の軽減とを試験運航期間に実施して、乗船効果を検証してはどうか。更に通勤通学サイクル利用者用の自転車、高齢者用の電気四輪車等を無料化して大胆に運航して欲しいものである。